

突きん棒漁に理解

唐桑小で食育授業

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(臼井壯太郎会長)の食育授業が、気仙沼市内の九つの小学校で開かれている。29日には唐桑小学校(佐藤幸弘校長)で開かれ、児童が突きん棒漁に理解を深めた。

復興庁の「新しい東北」先導モデル事業の一環。同校では地元第18一丸(19ト)の佐々木夫一漁労長(66)を講師に迎え、5年生23人が伝統の突きん棒漁について学んだ。佐々木さんは「海上でメカジキを探すのは、雪原で『つまよう

じ』を探すようなもの。広い海を凝視し、水面上にわずかに姿を現わす尾びれや背びれを探さねばならない。せつかく魚を見つけても操船する人と鮎(もり)を突く人の呼吸が

合わなければ取り逃がしてしまふ」と語った。

その上で、「漁は海や魚とのかけ引き。きつい仕事だが、魚が捕れば、例えようがないくらい喜びが大きい」などと醍醐味(だいごみ)を強調した。この日の給食には、学校給食週間にちなみ、同会が開発したマグロのベニエが登場し、児童を喜ばせた。



地元漁師から突きん棒漁について学ぶ児童